

本 会 記 事

1. 昭和59年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和59年度総会ならびに研究発表会は、170名が参加し、11月15、16の両日、高知市の高知県農協会館で開催された。

1) 総 会

15日の13時から開会され、昭和58年度の会務報告が承認されたのち、昭和59年度の事業計画ならびに予算案が上程され、承認された。議長は高知県飼肥料検査所長、山本公昭氏が当られた。

2) 研究発表

15日の13時50分から16日の12時まで、次の15課題について研究発表が行われ、討論した。座長は松本英紀、高井幹夫、山崎康男、加々美好信、谷本温暉、佐々木善隆の各氏が当られた。

- (1) 金磯泰雄(徳島農試)：ヒオウギに発生する病害虫
- (2) 寺峰 孜・川原俊秀(高知蚕試)・山本 磐(高知農林技研)：クワ輪斑病菌の生態
- (3) 後藤孝雄・上村幸正・勝部利弘(四国農試)：直播栽培がイネもみ枯細菌病の発生に及ぼす影響
- (4) 川村 満(高知県南国防除所)：イネミズゾウムシの卵巣発育について
- (5) 堀内崇裕(高知県南国防除所)：イネミズゾウムシの各世代における初発生時期の予測
- (6) 山下 泉(高知県南国防除所)：イネミズゾウムシの各世代の発生量の動向
- (7) 高井幹夫(高知県中村防除所)：高知県におけるイネミズゾウムシの年2回発生と越冬成虫の再飛翅について

(8) 大西孝志(香川県防除所)・十河和博(香川農試)：ハウレンソウ立枯病(*Pythium aphanidermatum*)の防除対策

(9) 小倉寛典(高知大)：ピシウム菌の遊走子の行動

(10) 佐々木善隆(香川農試)：ハイマダラメイガの発生と薬剤による防除効果

(11) 松岡隆宏・吉岡幸治郎・山崎康男(愛媛農試)：露地栽培ナスにおけるミナミキイロアザミウマの防除法

(12) 北村正和・松本孝雄(高知県安芸防除所)・関田友茂・沢本土佐男(高知県安芸農改)・松崎征美(高知農林技研)：施設でのミナミキイロアザミウマの効率的防除

(13) 渡辺丈夫(香川農試三木分場)：桑樹を加害するキボンカミキリについて

(14) 加々美好信・貞野光弘(徳島農試)：オモトのアザミウマの発生生態と防除

(15) 森 介計・大政義久(愛媛果試)：クリタマバチの被害許容水準と発芽期防除

3) 協 議

15日の15時40分から17時まで、「土壌病害抑止型土壌について」小倉寛典氏(高知大学)、「性フェロモンによるハスモンヨトウの誘殺」について平野千里氏(高知大学)に話題提供して戴いた。座長は都崎芳久、吉岡幸治郎氏が当られた。また、16日の9時から10時まで、各県における本年度の病害虫発生の特徴とその対策ならびに防除上の問題点について、山下定利(徳島)、野田弘之(香川)、武智文彦(愛媛)、川田洋一(高知)の各氏が報告され意見を交換した。座長は以西信夫、上田進両氏が当られた。なお、前日の役員会で、病害虫の発生状況については附表を掲載するよう要望された。

2. 次年度大会

昭和60年度の本会総会ならびに研究発表会は、愛媛県が担当し、昭和60年11月中旬、松山市において開催する予定である。